2024/01/08

冬の晴れ間にて

５期金属工学科卒：宇都宮 常男

私は、高専卒後非鉄メーカーに三年弱勤めました。その後、考えることがあり建築学科で建築を学びました。この二回目の卒業後、ずっと建築設計分野で働いてきて現在に至っています。学園での思い出は多く、学園の建物や寮(下宿先)、新居浜という街に伴う連想もあります。それらが結び合わされている記憶は、私にとってとても貴重です。今日は、最近の仕事を通じて感じていること、壮年期の一時期に「アート病」(自称)にかかったこと、現在の生活環境について紹介させていただきます。

① 義務教育学校新築工事：隠れる部分をめぐって

去年の年末まで現場常駐の設計・工事監理担当者として約２年半現場に毎日通い続けました。以下にその過程の一部を示します。押しなべて云えば、上書きされて(被い、上塗り等々)隠れてしまう過程または箇所がどんどん増えていきます。物象に限らず施工計画・工程表などの「こと」さえも含みます。ひとの営みとして後追いの取り繕いは不可避、意図的隠ぺいを暴く視点も必要です。

判断に悩むグレーな事態も起きます。解釈や決断をめぐって施主、施工企業、設計者、行政もグレーな言動に陥る事態も起きます。しかし関係者は、落としどころを「忖度」し完成期限を絶対に守ろうとせねばなりません。建築には、解答や解釈が多義的であることや現場一品主義的生産という特徴もあります。かくて、心情的にも経済的にも割り切れない、多大な時間を必要とします。

① ２年半前の着任当時の敷地
：この時期に地中障害物や
汚染土壌の搬出等を行います

②隣地地盤の沈下などを防ぐため
に地盤下 10M まで山留工事実施

③地盤下 20M まで杭を約 200 本
打設：杭支持

④地盤下の基礎や地中梁の配筋
と型枠完了：コン打設待ち

⑤地盤面近くの床完成、１階の
柱鉄筋組完了

⑥鉄骨鉄筋コンクリート部分は
鉄骨の廻りに鉄筋が配筋されます

赤：躯体群：奥に潜む要素が多い：一般人はおろか専門家でも見えにくい、見落とす危険要素がいっぱい

⑦屋上、屋根部の配筋、型枠が
完了：コン打設待ち

屋根下地、外装下地や
内装下地

⑧内装と外装・屋根が同時併行で
すすめられます

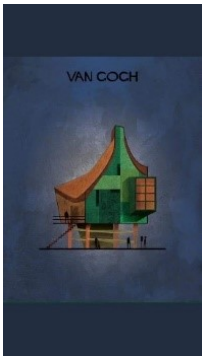
⑨２０２３年１２月で建物部分、外構
部分はほぼ完成、２０２４年はグラ
ンドなどの二期工事に着工、２０２
５年には全て完成予定

青：二次構造下地群：仕上げと躯体の間に介在し強度は躯体に頼り表の仕上げの
負荷を支える。妥当性や経年変化が見えにくい要素がある

② ビジネス建築とコンセンプチュアル建築（共に自称）：人生のまわり道

前述の義務教育学校はビジネス建築、以下の画像に示すものはコンセプチュアル建築と仮に名付けます。後者は、前衛的・実験的芸術につながります。青年期も過ぎた 30 歳から 45 歳の壮年期にこれに魅せられ、その真似事に相当の時間とお金を費やしました。これは、いわば「病」か「岡ぼれ」です。あげく中途半端な挫折に終わりました。先述の学校二回卒業という一回目のまわり道に加えて、二回目のまわり道をおかしてしまったのです。時はバブル期と重なりますし、建築の歴史的には近代主義に反発するように生まれてきたポストモダニズム、ネオポストモダニズム運動期とも重なります。

ただ、好きな分野で時を忘れる仕事は反面寿命を縮める。挫折は、良かったのかなあ・・・。でも、10 年後にコンセプチュアル建築に再挑戦したいなあ・・・。それまではビジネスです。どちらにせよ生きることでしょうか。



③ 南関東漂流漂着居留：青葉台に落ち着きました

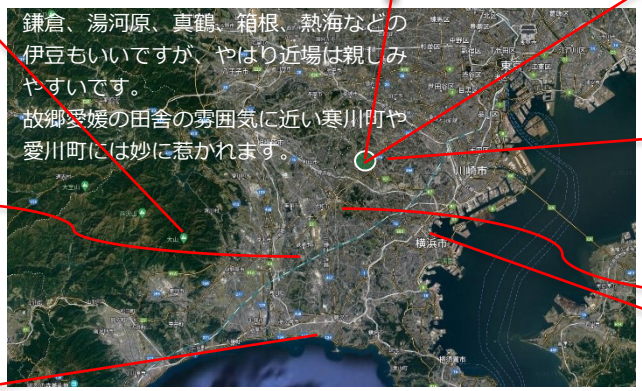
高専卒業以降、浦和、稲毛、茗荷谷、川越、青葉台と移り住んできました。考えてみれば、これもまわり道そのものです。青葉台で 20 年経ちました。本学友会には神奈川在住の方も多いとお見受けしました。共有できればと思います。TV にあやかり「ナニソレ凡百景」をご紹介したいと思います。

丹沢山地大山の阿夫利神社より横浜方面を望む：ここ五年で三回ほど登山

住まい近くのバス通り

バス通りから徒歩５分の高台の公園から丹沢山地を望む、大山が左端に望めます

阿夫利神社へ続く階段からの秋模様



住まいから徒歩１０分の鶴見川：週に一回程度散策

寒川町観光協会主催の芋掘り：ここ五年で三回ほど参加

瀬谷区を南北に伸びる海軍通り：北海道もどき

茅ヶ崎から辻堂にかけての海岸線：たまに行きたくなります

桜木町～野毛につながる飲食街：大好きです

命令や他律から解き放たれるためには、生きるための生物的配慮から自由になる時間・空間・ゆとりも必要条件ではないでしょうか。広い自然や土地や空気は、それを助けてくれる気がしています。

―以上―